

## 令和2年度

### 第3回総合教育会議 会議要点録

日 時	令和3年2月15日(月)午後1時30分から午後2時45分まで
場 所	大府市役所 委員会室1
出 席 者	市長、教育長、西村教育委員、富田教育委員、竹中教育委員、浅井教育委員、永田教育委員
企画政策部	企画政策部長、企画政策課長、企画係長
教育委員会	教育部長、指導主事(3)、学校教育課長、学校教育係長、学校教育係主査
オブザーバー	副市長
公開の可否	公開
傍聴者数	2人
議 題	(1) 第3次大府市教育振興基本計画の策定について (2) 制服(中学校標準服)の検討について

#### 開会

教育長 開会宣言及び議長は教育長が務める旨を述べる。

#### 1 あいさつ

- 市長
- ・4月以降、新型コロナウイルスワクチンを希望者に接種できる体制を進めている。情報は刻々と変わるので、国の動向を見守りながら進めていきたい。
  - ・多くの学校行事が延期、中止となり、市では50周年の事業が出来なかったが、状況が許せば新年度に市制50周年プラスワン事業を実施したい。
  - ・コロナの影響で早まったギガスクール構想については、国の前倒しの方針により、ほとんどの市町村が今、対応していると思うが、本市は前々から学校のICTへの取り組みを進めていた。現在は、小学校4年生以上の1人1台のタブレット端末の整備を完了し、自宅に持ち帰って学習できる体制を進めている。
  - ・Wi-Fi環境のない家庭については、ルーターを貸与することを進めている。
  - ・また、新年度から新たに教育情報化指導員を配置して人的体制を整える。
  - ・学校の工事については、特に体育館の冷暖房について、今年度、4中学校にLPガス対応で設置した。
  - ・来年度から令和4年度にかけては、9小学校の体育館の冷暖房を設置していきたい。
  - ・本市は人口が緩やかに伸びており、子どもも増えているので、必要な校舎の増築等を計画的に進めていきたい。
  - ・国において35人学級を計画的に進める方針が示されており、県の方針も踏

まえて市としてしっかり対応したい。

- 教育長
- ・昨年2月27日に休校要請が発表され、3か月の休校を経て、大変な学校運営を強いられながらも何とか今日に至っている。
  - ・35人学級については、令和3年度から1学年ずつ、国全体としては、小学校2年生から6年生まで5年間かけて実施していくとのこと。
  - ・先日、愛知県が、国より1年の前倒しを公表したので、愛知県の場合、来年度、小学校3年生まで35人学級となる。
  - ・この前倒しの影響として、本市では3年生が3クラス増える見込みであるが、来年度は大きな問題はない。ただ、少し長期的に見ると、教室の増設等の計画を少し早めていく必要が生じる可能性がある。
  - ・教員の負担軽減、働き方改革については、一昨年度、「大府 子ども教職員を元気にするプロジェクト」を発足させ、構成員である教員等から各種提案を得た。提案の実現に際しては市長部局にかなりの御支援をいただいた。
  - ・この春から、改めて「子ども教職員を元気にするプロジェクト」を立ち上げて、さらに何ができるのかを、学校の先生方とともに考えていく体制を作りたい。

## 2 協議・調整事項

### (1) 第3次大府市教育振興基本計画の策定について

《事務局から内容について説明》

- 学校教育係  
主査
- ・教育振興基本計画については、これまで何度か市長部局との調整、定例教育委員会、学校及びPTAの代表者で構成する義務教育推進協議会で審議し、パブリックコメントを経た後、最終形まで出来上った。
  - ・先週2月8日、定例教育委員会で、内容を審議したので、本日、総合教育会議で最終案として決定の後、公表する。
  - ・パブリックコメントは令和2年12月19日から令和3年1月19日まで実施した。結果、意見提出件数は3名6件だった。
  - ・いただいた意見については参考にするとともに、本日の会議を経た後に回答を市ウェブサイトで総括的に回答することを予定している。具体的な内容については意見の概要と市の考え方を示させていただいた。(以後内容説明)
  - ・今後のスケジュールについて、本日の総合教育会議で御審議いただいた上、最終的には決裁の後に公表していく。
- 教育長
- ・教育委員は3回、4回と計画の説明を聞いていると思うが、この段階で新たにお聞きになりたいことがあれば聞いていただき、意見交換をしたい。
- 浅井委員
- ・何度も議論して、とてもすばらしい内容だと思う。基本計画書はどこに配布

する予定か。とてもすばらしいと思うので、できるだけたくさんの人に見ていただきたい。ただ、少し厚い冊子なので一般の方には読まない方もいるのではないかと思う。したがって概要版のようなものもあると良いと思った。

学校教育係  
主査

- ・配布先は学校、市議会議員、市の施設などの関係機関や、特別支援学校などを計画している。
- ・計画書については概要版を自主作成しようと考えている。

教育長

- ・ウェブサイトにも掲載して、誰でも見られるようにする。

永田委員

- ・13ページについて、大府市の状況と取り組むべき課題に対して施策を実現するための手段のところに書いてある順番が違うところがある。18ページの5番の不登校児童生徒への支援について、20ページを見ると、順番が違うところがある。27ページの確かな学力の育成について、課題のところに書かれているのと、下の1番2番の順番が逆になっているとか、34ページのグローバル化に活躍する人材の育成について35ページのところに書かれている施策を実現するための手段も1、3、2、4の順番で文章が書かれている。39ページの食育の推進も、1、2、3、5、4の順番で書かれている。53ページの持続可能な学校指導体制の整備のところも1、2、3、6、4、5の順番に書かれている。55ページの児童生徒に向き合う環境づくりと教職員の働き方改革も、1、2、4、3の順番になっている。

学校教育係  
主査

- ・ご指摘いただいた点を点検させていただいて、必要に応じて修正をさせていただきます。

永田委員

- ・35ページ1番の「英語の授業や外国語活動の時間を通じ、国際文化を理解する教育を推進します」というのは、課題の「国際理解教育の推進」をより具体的に書いたということか。国際理解教育以外に、外国文化や生活習慣という言葉も出てきてわかりにくくなっている気がする。

学校教育係  
主査

- ・少しわかりづらいと思ったので、手段の表現に合わせて修正する。

竹中委員

- ・先日の定例教育委員会でも言ったが、パブリックコメントが非常に活かされていると感じた。細かい点も配慮しており、ここまで仕上げるまでに苦労があっただろう。いいものが出来たと感じている。

富田委員

- ・私は学校現場を退職してから1年間、知多教育事務所で特別支援教育を担当していた。そのとき、保護者の方が、地元の学校で地元の子供たちと一緒に教

育を受けたいというニーズがすごく高まってきていることを強く感じた。実際、近年、重い障がいの子も地元の学校へ来るようになって、特別支援学級の担任の先生の負担がすごく大きくなっている。県の基準で8人の子に対して担任が1人という基準なので現場では非常に苦勞をしている。そんな親御さんのニーズの中でも大きいのが、できる教科については通常の学級でほかの子供たちと一緒に学習をさせたいという希望が出ることである。ただし単に授業を受けさせても学習効果が得にくいから、授業を受けながら隣について、支援する人員が必要になる。学校現場では、カリキュラムを工夫して、できるだけ親御さんのニーズに沿うように通常の学級へ行って学習をさせているが、マンパワーには限界がある。そういった中で、来年度の特別支援学級補助員の予算がより充実するとの話を聞いてうれしく思う。教育委員会では環境整備を頑張っているから、学校現場では工夫を重ねて、親御さんや子供たちのニーズに応えられるような特別支援教育を進めていけるといいと思う。

- ・特別支援学校の教員は専門の免許を持っており、専門的な指導をできる一方、地元の小中学校の教員は、特別支援の免許を持っていない者が多いが、日々、子供たちがよりよく育つよう苦勞して、研究している。パブリックコメントにもあったが、特別支援学校の教員が公立の学校へ出かけて、いろいろと御助言をしていただくが、かなり希望が多い。そういったことも一生懸命やっていることが、世間に広まっていくと、障がいを持った子の親御さんたちも安心していただけると思った。

- ・不登校について、保護者の悩みのひとつは、学力が落ちてしまうことで進路の選択が困難になることである。レインボーハウスでは市独自のカウンセラー5人で親御さん、子供本人をサポートする、すばらしいシステムになっているが、学校に来られない子も、タブレットを使って、学校で授業を受けるのと同じような学習ができると良いので、工夫して進めていただきたい。

永田委員            ・大変すばらしい冊子ができると思う。今回は令和3年度からの5年間の計画だが、今後、新しい課題が出てきたときに、計画策定時には想定されていないことでも、柔軟な対応をして、より良い教育環境をつくっていただきたい。

西村委員            ・基本計画の10ページにもあるように、項目一つ一つが重要だと計画を見て思った。今後、急速にタブレットの活用が進むにつれ、インターネットを介することで生じる子供たちへの影響も危惧されてくるので、そういった面でも、きめ細かいケアが必要だと感じた。

浅井委員            ・他市町の保護者から、大府市は子供の教育と医療がとても手厚くされて、うらやましいという言葉をよく聞く。これだけ真剣に教育について考えていることがよく分かる計画書なので、しっかりPRしていただきたい。

市長 ・基本計画を作るに当たり、大府市の現状と課題をこの紙面の中に集約することが重要で、教育委員さんに御意見をいただきながら、計画に反映できていると感じている。今後、この計画を拠り所に、成果指標を確認しながら計画を推進していただきたい。市としても、財政的な措置、人的な措置については、教育長、教育委員の皆様と相談しながら進めていきたい。子供は地域にとって宝であり、子育てについては、一生懸命力を入れていきたいと考えている。

## (2) 制服（中学校標準服）の検討について

《事務局から内容について説明》

指導主事 ・夏季は、現状の制服では快適な学校生活を過ごすことが困難な場合がある。もちろんエアコンの設置によって、教室での授業は快適になったが、登下校時、冬季も含めて過ごしやすい制服を検討したい。この過ごしやすいという意味の中には、気候だけではなくLGBT等、多様性の考え方も含まれる。

・制服検討委員会のメンバーは、4中学校の代表、市P連の会長ほか、PTAの代表、教育委員会委員、市教委事務局等を考えている。

・今後、4月に検討委員会を設置し、意識調査の実施に向けて第1回の検討委員会で内容を精査する。7月に第2回検討委員会で意識調査の結果を踏まえて方向性を決定していく。

・同時に、販売店、業者への確認をしていく。10月にはプレゼンテーション実施し、マスターメーカーの決定を想定している。制服販売には一括方式と併売方式があり、それぞれメリットデメリットがある。

・令和4年1月ごろには、デザインサンプルを共有し、修正しながら協議していく。ここまでは検討委員会が主導になる。その先は市教委が主導していく。

・3月には最終サンプル商品を共有し、4月には縫製仕様を決定していく。そして、プレス及び対外に関する対する告知をし、令和5年度には、販売を開始していきたい。

・8ページ、選択できる制服について、ブレザーを想定するが、男女別のシルエットとするか共通とするか、これもそれぞれメリットデメリットがある。

・他市の動向について、令和3年度に実施する県内の市の例では併売方式、令和4年度開始の県内の市の例でも併売方式、令和5年度に実施する県内の市の例では一括方式の見込み。

教育長 ・ご意見ご質問をお聞かせいただきたい。

富田委員 ・日程について、令和3年5月に意識調査実施となっている。調査内容はその前の検討委員会で検討するということだが、調査対象は、どういった人か。

・予定の中には、多様な方の意見を吸い上げる仕組みがないように感じる。

- 指導主事
- ・対象については決まっておらず、今後、検討したい。
  - ・多様な方への意見照会について、特に考えてはいなかったが、検討委員会の中で考えていきたい。
- 浅井委員
- ・LGBTの方が学校に行きやすくなるので、ブレザーはとても良いと思うが、確認したいのは、5月に行うアンケート調査で、仮にこれまでの制服のほうが、セーラー服のほうが良いという結果が出た場合は、それでも進めるのか。
- 指導主事
- ・校長先生方の意見では、進めるべきだと聞いている。アンケートについては、マルかバツかの択一にするかということも含めて今後の課題となる。
- 浅井委員
- ・例えば他市町から引っ越してきたときに、セーラー服は各市町共通なのか、大府市に転入したら、現状、新たに買ってもらうものなのか。引っ越してきた親御さんへの負担が少なくなるような方策等は考えられているか。
- 指導主事
- ・基本的には大府市に転入した場合は、大府市の制服を準備いただくことになる。転入者の中学生生活の残りの期間にもよるが保護者と話しながら決める。
  - ・全体的な流れとして、制服を見直す取り組みは増えてきている。
- 竹中委員
- ・制服見直しをするに至る経緯に関心を持った。実際に検討が始まると、大府市民、保護者にとっては関心事になる。意識調査は、うまくやらないといけなと感じた。
- 永田委員
- ・アンケートで様々な意見が出てくる中で、落としどころはすごく難しいと思うので、慎重に判断していただきたい。また、金額が今までと比べてどのぐらいの値段の差が出るのか、保護者の負担がなるべく少なくなるような方向としていただきたい。
- 西村委員
- ・現在の制服は通気性等を考えると、子供たちが過ごしやすくない面があるので、見直す機会が得られたということはとても前向きに捉えている。
  - ・最初の意識調査を綿密に考えてやらないと、違う方向性に行ってしまうことが危惧される。
  - ・金額については、なるべく、保護者の御意見も聞いていただきたい。
- 浅井委員
- ・もし制服を変えるならば、メリットを示してほしい。新たな制服の機能性等を保護者等にアピールすることも必要かと思う。
- 富田委員
- ・制服は、保護者も子供たちも関心が高い。生徒が進路先の高校を検討すると

きに、制服の見た目を判断材料にする場合もあると理解いただいて、進めていただきたい。

・例えば私は男性にしては体格が小さく既製品の選択に困るが、そういった要素も念頭に入れながら、検討を進めていただきたい。

指導主事 ・確かにアンケートは重要だと捉えている。教育委員の皆さん方にも意見をいただきながら進めていきたい。

・価格については現状と比較して、高くなることはないと思っている。

市長 ・こういった学校現場、学校運営に関することは、基本的には、学校の先生、PTA、教育委員会等に決めていただきたいというのが基本的な考え方となる。

・1つの選択肢として、一部の高校であるように制服をやめるという考え方もあり得る。高校と中学では状況が違うとは思いますが、幅広く制服の在り方を検討していただきたい。